

報 告 事 項

(1) 環境月間講演会について

・ 6 月 4 日（木）10：00～11：30

・ 講師 大同大学 大東 憲二 教授

・ 工場従業員対象 参加者約 150 名

・ ご講演内容

土壌地下水汚染の実態や浄化に対する科学的なアプローチについてのご説明

1. 愛知土壌・地下水汚染対策研究会について
2. 東芝愛知工場名古屋分工場の土壌・地下水汚染対策
3. 名古屋市内の土壌・地下水汚染対策事例
4. まとめ

(2) 環境専門委員会分科会（企業価値向上、環境リスク評価について）

・ 5 月 2 0 日（木）13：30～15：30

・ 専門委員出席者 環境専門委員会 姜 永根委員

・ 石原産業出席者 工場長、工場幹部、事務局

・ 姜委員ご講演内容

1. 企業価値向上のために
2. 環境リスク評価について

次ページに姜委員のレジュメを添付しています。

平成 21 年 5 月 20 日

石原産業株式会社四日市工場における
土壌・地下水汚染に関するリスクマネジメントについて

おおさかA T C グリーンエコプラザ
「水・土壌汚染対策研究部会」
会長 姜永根

1. 企業価値向上のために

過去の負の遺産である汚染土壌や地下水の存在は、地域社会に対する環境リスクを増大させる可能性を秘めているばかりでなく、浄化・修復責任、損害賠償責任、不動産価値の低下、企業イメージの失墜など様々なリスクを抱えることとなります。

また、この問題に係るステークホルダーは多岐に亘るために、コンフリクト（対立・摩擦・葛藤）も各方面で大きくなっており、これら関係者とのリスクコミュニケーションを適切に実施することがたいへん重要な要件となります。

今回、第三者である環境専門委員会が、公開された場所において、土壌汚染調査や浄化対策の方向性や内容などを議論し、その結果をホームページで開示してきたことに対して、利害関係者からたいへん高い評価を得ています。

今後、より一層企業価値を向上させるために、マスメディアや専門誌を通じて、今回実施したリスクマネジメントの在り方やリスクコミュニケーションの進め方について、広くPRすべきと考えます。

2. 環境リスク評価について

土壌・地下水汚染問題は、汚染土壌や汚染地下水の存在そのものでなく、汚染土壌や地下水に含まれる汚染物質が、様々な曝露経路を通じて人の健康や環境への悪影響を及ぼすことです。

従って、土壌・地下水汚染対策の目的は、汚染土壌・地下水をなくすことではなく、汚染土壌に起因するこれら悪影響のおそれ、すなわち環境リスクに許容されるレベルに抑制し、管理することにあります。

欧米先進国では、このような環境リスクベースで土壌汚染問題を捉える考え方が取り入れられ、土壌汚染による環境リスクを定量的に評価し、その低減を図る取り組みが行われています。

このようなリスク評価の考え方は、費用対効果の最大化を図りながら、環境リスクを許容範囲まで合理的に低減することが可能となります。

従って、今後、貴社敷地内における対策について、毒性リスクや曝露リスクなどに関する科学的な「環境リスク評価」を行った上で、優先順位を付け、敷地外流出防止或いは原位浄化の工法選定を行うべきと考えます。

*上記の詳細、また他のリスクマネジメントに関する事項については口頭で説明します。